平成22年度　大和市障害者自立支援協議会　第2回定例会　議事録

場　所：	大和市障害者自立支援センター
日　時：	平成22年9月27日（月）　17：00 ～ 19：00
出席者：	下記参照

出 席 者：定例会委員（敬称略、定例会組織図順）

宇山秀一（県央療育センター）、成澤一之（ワークステーション・菜の花）、
佐野文彦（あゆみの家）、村元良悦（大和市社会福祉協議会）、
山岸安志（大和障害者地域生活支援ネットワーク）、鳥原信一（大和市身体障害者福祉協会）、
春日恵美子（大和市手をつなぐ育成会）、
田中貞代（（特非）大和さくら会（精神障がい者家族会））、
阿南由美（大和市教育委員会総務部指導室）、
薮内昇（神奈川県立瀬谷養護学校 地域支援担当）、佐藤倫孝（自立支援センター）、
風間康子（サポートセンター・花音）、関水貴浩（福田の里）、
菊間博子（大和保健福祉事務所保健予防課）、菊地原広憲（大和市健康福祉部障がい福祉課）

事務局

和賀礼奈、松川亜希子（自立支援センター）、五十嵐衛、石射千夏（サポートセンター・花音）、
山田兼右、寺﨑由布季（松風園）、田邉努、星野宗吾（福田の里）、
柏木裕幸、佐伯隆宏、笹岡整、民實健二、徳増奈津子（大和市健康福祉部障がい福祉課）

欠 席 者：　目黒裕（松風園）、
大沢茂子（大和市身体障害者福祉協会（内部））※、
高橋正敏（大和市身体障害者福祉協会（肢体不自由））※
田辺暎夫（大和市身体障害者福祉協会（聴覚））※　　注）※オブザーバー出席者

資　　料：　1．相談支援事業実績報告
2．相談事例報告書（1件）
3．専門部会活動報告（児童・就労・精神・身障）
4．自立支援協議会全体会　開催案

内　容：

〔 議　題 〕

1、相談支援事業　活動報告

（1）実績報告

・資料を基に事務局から説明

・今回は、4月から8月の集計。相談支援を始めてからの4年間の推移をグラフ化している。

・延べ件数をみると、4年間かけて徐々に落ち着いてきているが今年度は精神の方の相談が増えている。

・延べ時間数の表、身体障がい者の方の件数は21年度から22年度まで減っているが、時間数は上がっている。また、精神の方の相談時間数も増えている。

・実件数の表、実件数はあまり変化なし。

・延べ件数の表、延べ件数を実件数で割ったもの。全体的に延べ件数は減ってきたが、横ばいとなっている。

・延べ時間数の表、所要時間を実件数で割ったもの。件数と同じような傾向がでている。

・相談方法の表、電話相談は若干減っている。訪問は横ばい。

・相談方法の時間数の表、関係機関の相談が件数は若干減っているが、時間数は伸びている。

・相談内容の年度毎の表、大きな変化はないが、権利擁護の相談の件数が平成22年度は伸びている。就労に関する相談も伸びている。

・相談内容の時間数の表、サービス利用相談は、件数は横ばいだが、時間数は増えている。一件にかかる相談時間数が増加している。また、医療に関する相談は、件数は落ち着いてきているが、時間としては伸びている。

・サービス利用に関する相談は、件数は落ち着いてきているが、時間数は伸びている。障害種別にみると、知的障がいや精神障がいの相談は増加している。また、精神障がいの方のサービス利用の相談や、生活全般の相談が多くなっている。

・年度毎にみた事で、障害種別毎の傾向が徐々に見えてきている。身体障がいの方や知的障がいの方、精神障がいの方の相談では、サービス利用の相談、生活全般の相談、就労に関する相談が主な相談内容になっている。児童に関する相談では、サービス利用の相談、生活全般の相談が多くなっている。

【質疑応答】

・サービス利用の相談について、具体的にはどの様な相談が多いのか（委員）。

→精神科の病院に入院している患者の地域移行の際の支援やネットワーク構築に関する動きが多くなっている（事務局）。

→ニーズがあっても社会資源が無い為に、この件数が伸びているのか（委員）

→分野によっては資源の少なさもあるが、様々な機関からの地域移行の例が増えている（事務局）。

・精神のサービス利用の相談が多くなっているとの事だが、通所している方からの相談なのか、あるいは在宅の方からの相談なのか、割合はどうか（委員）。

→データを持っていない（事務局）。

→地域移行のケースは増えている。通所先の事業所からの相談も多い（委員）。

・就労に関する相談が増えているが、実際に就労に結びつくケースはどの位あるのか（委員）。

→割合的には知的の方や精神の方が多い。精神の方の場合、相談の入り口のところで就労に関する相談として受けるのだが、実際に相談を進めていく中で、生活部分の課題が見えてくる事も多く、就労の前段階で様々な調整をしていくケースが多い。また、支援センターからは毎年約20名が就職している（委員）。

・相談の記録から分析は可能ではないか（委員）。
→相談を受けた時のデータの取り方は、データベースを使用している。その他、詳細の記録を取っているので、それをデータ化する事は可能であるが、莫大な量があるので、容易にはできない（事務局）。
→優先度を付けて、分析できないか（委員）。
→可能であるので、ご意見を頂きたい（事務局）。
・データが必要であるとは考えていない。相談があって、ニーズがあるのであれば、社会資源がどれだけあってどれだけ足りていないのかを把握する事が大切ではないか。件数の人数等よりも、大和市全体の障がいを持った方のニーズに対しての受容と供給を把握する事の方が必要ではないか。相談は生の声を聞いているのであるので、それをこの場で伝え、今後の方策を検討する事が必要ではないか（委員）。
・誰からの相談であるのか。当事者の方が何を望んでいるのかが重要になってくる。当事者のニーズが見えてくると良いと思う（委員）。
・精神の方で、通院はできているものの、在宅で家族だけで悩んでいる方が多くいる（委員）。
・事務局で傾向をしぼりながら、データの分析等を検討したい（委員）。

（２）相談事例報告（事例を通した課題提起）
・資料を基に事務局から説明。
【質疑応答】
・本人の現在の状態はどうか。本人の気持ちはどうか（委員）。
→地域生活を送る中で、様々な課題は生じているが、ご本人や関係機関と相談・調整しながら、その都度課題について検討し、具体的に取り組んでいる（事務局）。
・本人の状態や目標を確認しながら支援をする必要があるのでは（委員）。
・精神の方が自立する事がいかに困難であるか、いかに支援が必要なのかという事が良く分かる。家族にヒントがあれば教えて欲しい（委員）。
・地域で暮らしていく事は当たり前であり、最終的な目標ではない。生活以外に目標を見いだせなければ同じ事を繰り返してしまう恐れがあるのではないか。また、ご本人の代弁者は誰なのか。一人一人の生き方の支援が必要ではないか（委員）。
・相談支援事業所が中心になって取り組んでいる事を確認した上で、決して特別な事例という事ではなくて一つのモデルケースとして今後に繋げていく事が大切なのではないか（委員）。

２、各専門部会の活動報告
（１）児童部会
・資料を元に事務局から報告。
（２）就労部会
・資料を元に事務局から報告。
（３）精神部会
・資料を元に事務局から報告。
（４）身障部会
・資料を元に事務局から報告。

【質疑応答】

・あゆみの家、職員体制上の理由から職員が就労部会・精神部会に参加できていなかったが、来月から参加できる見込みである（委員）

・県議会において、新しく特別支援学校を県内（横浜市瀬谷区）に設置する見込みとの発表があった。また、横浜駅に通学の見守り等を行うボランティアの配置を検討している様だ。今後、大和駅等にも検討できるといいと思う（委員）。

3、自立支援協議会全体会について

・事務局会議において、開催案内のたたき台を作成した。皆さんで内容について検討をお願いしたい（委員）。

【質疑応答】

・各部会に分かれての分科会の内容については、よく詰めた方が良いのでは（委員）。

→全体的に統一する部分と部会の特色を出す部分とを、各部会で検討したい（委員）。

→基調講演について、他市でも行っていたが、今後の見通しについての内容で、とても勉強になった。各部会の報告もあったが、取り組んできた内容の報告や良い方向にまとまりつつあるとの報告であった。地域の方も参加し、地域に対してのメッセージ性もあり、とても有意義なものであった（委員）。

・基調講演の内容や開催時期についても、意見を頂きたい（委員）。

4、その他

【事務連絡等】

・神奈川県「学校へ行こう週間」の実施について（委員）。

・次回の定例会について

→昨年度は 11 月の下旬に開催。今年度は、11 月下旬から 12 月初旬に予定（委員）。

以上